

然るに一度電車賃値上案は市會を通過し所謂優遇案實施の見込みも立ち、一方中西理事長は收監せられて、組合の運動は緩和なる原田代理理事長を中心として、穏々生氣を缺ける時、電氣局が一部従業員に御用組合の組織を懲懲し目下其の劃策中なりとの報、組合の幹部に達したり。此處に於て組合の各支部代表者約二百名は三月中旬三の輪新世界に會合して之が對策を凝議したりき。此時御用組合の如き假令成立するにせよ、到底その勢力を擴充すべしと思はれれば、眼中に置く必要なしと樂觀するもありたれども、原田代理々理事長の如きは電氣局と默契して成立する一團體の出現は何かにつけ交通労働組合の運動を制肘する一勢力を形づくるに至るなきかを憂慮せり。かくて交通労働組合の目して、御用組合となす一團體が監督代理及二月廿九日發會したる正義會員たる監督等に依つて組織せられ、三月廿五日、六日の兩日に亘り明治會館に於て發會式を舉げ中正會と名稱したり。中正會成立の趣旨は「中正穩健を期し苛も輕舉妄動せず」と云ふに在り、曩に組合の利益に反する故を以て交通労働組合役員より除かれたる西村泰三、鹽見清等も入會し監代にして交通労働組合員たるもの多數加はり、會員數六百名と自稱したり。而して中正會は電氣局の傀儡にあらざるにせよ。其會員の大部分は監督及監督代理なれば、従つて永年勤續し給與及手當等に於て、普通従業員よりもよく、或者は家庭に多くの系累を有し、或者は若干の恒産を有するもあり、何れにしても自己の現在の地位を輕々しく犠牲となすを好まざるものゝみなると云ふを得べし。されば中正會は會其のものゝ性質上、交通労働組合とは相容れざるものたるのみならず、組合側にては組合に對抗すべく生れたる團體と解したり。

### △中西氏出獄

然るに中正會成立して間もなき四月一日に至り中西理事長は保釋の恩典に浴し假出獄を許され再び交通労働組合本部に歸り來れり。從來中西氏は、議論は兎も角運動方法に就いては成可く罷業を回避せんとする態度ありしが、組合員中には之を慊らすとし、又電氣局への對策上中西氏を頭に頂くを不利として喜ばざるもありて、氏の組合に於ける地位は必らずしも鞏固と云ふにあらざりき。然るに交通労働組合の運動の犠牲となりて一度收監せられしよりは、氏に對する信認と同情の念は漸く組合間に擴まり、氏も亦出獄後の態度は従前の如く遲疑する所なく、罷業に關する意見も強固となり、従つて中正會の如きは齒牙に掛くるに足らずとなし、氏の刑に就いては氏自身既に相當の覺悟あるを語りて幹部を激勵したれば、組合幹部は大に力を得、爾後隨所に集會を催し、電氣局優遇案の時間制改惡の修正要求について組合員の結果を計り、一方中正會に對する組合員の反感は漸次増大しつゝありき。そは組合幹部中痛く中正會を憎惡するものありて、中正會の不純性を宣傳したるのみならず、兎角交通労働組合の内情及諸種の劃策が電氣局要路者に洩るゝは、組合の誠實なる會員の如く装ひて入込める中正會の密偵の所爲なることを確めたと同時に、中正會に加盟したる腹心の組合員の内偵に依れ